

成人向
十八禁

マ乳



あねこの手帖

はるなの 乳渠ドック 大作戦

沖ノ島海域
攻略戦

ドン
ドン
ドン

キヤあ
あ

やだ
こんな…
でもっ!?

水破!?



うっ…

こんなの
かすり傷程度
なんだけどな…

ホロッ

入渠前に
装備をはずす
わね

もじ

では提督
お言葉に甘えて
入渠させて頂きますね

もじ



※うちの艦隊には
金剛さんがいません…

…お姉さま…
はるな…

しっかり
しなさい比叡
※金剛お姉さまが
見たら呆れられる
わよ
横山(よこやま)お姉さま
取られても
知らないから



比叡お姉さまも
霧島も早くドックに…
んっ♡あ♡
入って!

提督の
ために

あー

あぁ

は♡あ♡
あ♡あ♡
ト♡ト♡

あ

はあ

はあ

フ♡フ♡

フ♡フ♡

♡びゅ♡



早く
お風呂に
よー!
次がつかえて
るんだから

あ
♡
♡
♡

ビュッ
カ
ア
ア

び
び



謝
だ
ク
マ。
くま

ニの
アールは
穴場くま♡

おしま!!

そのころ
提督室



あつめて 秘めし



清香みのお茶は、いつの間にか冷めていた。今朝からずっとこんな調子だ。どうにもボンヤリとしてしまっ、気付けば時間が過ぎていく。「どっかしたかい？」

隣で本を読んでいた友人が目をあげ、静かに声をかけてくる。

返事を待つ友人、時雨のまっすぐな視線、やめてほしい。今日のボクには刺激が強い。

「こめん、なんだか調子出なくて、出撃疲れかな」「うん、しばらく夜戦続きだったしね、仕方ないさ」

微笑んで、時雨は自分の白湯を飲んだ。湯香みにあたる唇がちらりと見えて、ボクは頬が真っ白になる。

どうしよう、時雨のことを見続けられない。同僚様で、気の合う友人で、今日みたいな休養日が一緒になれば、将棋をしたりアイスを食べたりと気軽に付き合えた彼女を真っ直ぐ見続けられない。

立ち上がりて走り出したい気持ちで体がいついはい、でも時雨の側から離れたくもない。冷めたお茶を一気に飲み干しても、体の芯は熱いまま。

「部屋に帰って休むかい？ 僕は構わないよ」たぶん真っ赤になってるだろうボクに、時雨が言う。

「大丈夫だよ、うん、ぜんぜん大丈夫。ちよと休んだら街に行こう」

ありったけの空元気で言い放って食卓の上に顔を伏せる。

いまの自分とはびっくり変だ。付き合わされる時雨もいい迷惑だろう。「こめんね時雨、全部、昨日みた夢が原因なんだ。」

「最上?」

「え、あ、なに?」

肩を叩かれて我に返した。また、ボンヤリと……昨日の夢を思い返していたんだ。時雨と二人、お互いの体を楽しんだ夢を。

「うわーっ!」

耐え切れずボクは頭を抱えた。

回憶で友人を相手にあんな夢を見るなんて、まるで普段から時雨をイヤラシイ目で見ているみたいじゃないか。

お風呂に洗いつける時の胸やお尻に欲情して、本をめぐる時雨の指でボクの中を触って欲しいって思ってたのか? そりゃあ、時雨の肌は白くて綺麗だし、お尻の形がいいなあと思って思ってた事はあったけど、でもそれは……

「本当に大丈夫かい。部屋まで送ろうか?」

大丈夫じゃないよ。真ッ赤になった顔が上げられないよ。心配した時雨が背中に回した手、その感触すら気持ちいいなんて言えないよ。でも、何か言わないと時雨との休日が終わってしまう。

「い、一緒に……今日は一緒に部屋でゆっくりしたい、かな」

ボクはどろりしてしまいました。こんな物言いは、らしくない。とても愛だ。

「……最上は甘えんぼだね」

少しの沈黙を挟んで、時雨が耳元で囁く。それはあまりに夢とそっくりな響きでクラクラする。

「行く。最上」

「……うん」

ボクは熱い体で立ち上がった。まるで、また夢の中に居るみたいだと、そう思った。



あとがき

または赤城の入れ頭持ち対話

K提督
「驚倒って、いい匂いするのかな？」

T提督
「しますね、白露は良い石鹸の匂い致します。してました」

K提督
「全開研削は高級なシャンプー番がしたよ」

T提督
「キミのところには全開研削さんいらしゃらないデース、あの子は赤城のものアしとが使ってるからして、そういう系です。あとなんか体温高そう」

K提督
「艦娘ちゃんも高そうね、持ってないけど」

T提督
「史実的には高すぎて倒れちゃうタイプだね、持ってないっつたら長門嫁が全然来ないんですが、どういうツクなんですか」

K提督
「なんでだろうね、知り合い提督さんがたは、涼しい顔で入手してらっしゃる。なにが足りない……真夏はいつも不足気味だが」

T提督
「そんな悩みをお持ちの貴方にオススメの建造法がこれ！ いつものレシビを叩き込んだら利き手とは逆の手でクリック！」

K提督
「オカルトじゃないが！」

T提督
「まあまあ、騙されたと思ってやってみなって、もちろん私も実践致しますよ！」

K提督
「しょうがないなあ………騙されたっ！ さずりもしやがらねえ！」

T提督
「あっはっはっ うちも那珂ちゃんリサイタルの開始だったよ」

K提督
「ちよっとでも期待した自分が痛い」

T提督
「あとオカルトで言えば、欲しい艦娘を船に描くとくるらしいよ」

K提督
「オカルト以外の方法を教えて欲しいんだけど、まあ早くよ。ゼーガーマーレー」

T提督
「長門じゃないのや、あっ！ 時間分が切れてきた、絵巻にして補給せねば」

K提督
「ほんとに時間好きだね」

T提督
「提督さんが飛び抜けているけど、白露型は全部好きだよ、ややお嬢さん気味の意欲、育ちの良さを感じるよ、五戸四以降のノースリーブ……提督室に集めて楽しそうにしている姿を見守りたい」

K提督
「……なんで、こんな話してるんだっけ？」

T提督
「こんなって、赤城さんがドックから出てこないからだよ、うちはあと6時間」

K提督
「うち4時間、長門はだよね、ぶりつるになった赤城さんをすべすべしたい」

T提督
「早く補給目を貰うんだ！」

K提督
「家具コインたまらないので、いまはプールで我慢するよ」

T提督
「あの系統の家具を売った上で『キミ、まだ居るんだ』とか言われると放置プレイの楽しみ方が判ってしまうよね」

K提督
「いや、わかんないけど、提督の影の薄さって時々スゴイね、全開研削の提督うぶっふりとかはキルグっほくていいかも」

T提督
「艦娘同士がイチャコラしててくれれば、提督なんていなくてもいいけど」

K提督
「まーねー、ああ、我慢できない！ 赤城さんバケツ使っよ！ あ風呂がら出てきてっ!!」

●艦娘ちゃんのお風呂
魚の目発射マシン

ホキ
ジェル♡

